

後志教育講演会報告書

事業名	令和3年度後志教育講演会 兼 第54回後志管内教職員研修会
主催者名	後志教育講演会実行委員会 一般財団法人北海道公立学校教職員互助会
後援者名	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育庁後志教育局 ・後志町村教育委員会協議会 ・倶知安町教育委員会 ・小樽市教育委員会 ・後志小中学校長会 ・小樽市校長会 ・後志小中学校教頭会 ・小樽市教頭会 ・後志教育研究会 ・後志へき地・複式教育研究連盟 ・後志社会教育主事会 ・倶知安町PTA連合会
実施期日	令和3年12月28日(火) 14:00～16:00
実施会場	倶知安町文化福祉センター 公民館大ホール 倶知安町南3条東4丁目 ※問合せ先 後志教育研修センター TEL0136-22-1337)
参加対象者及び参加人数	・教職員 91名 ・教育関係機関職員 6名 合計 97名 新型コロナウイルス感染対策で600名収容のところ、管内教職員100名に限定
入場料金 (講習料・参加料)	・無料 内訳(有料の場合)
事業の内容	<p>教育講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 高橋義男氏(とまこまい脳神経外科 副院長兼小児脳神経外科部長) ・演題 「渡る世間は嘘ばかり・・・Part1」 -思考停止の世の中で…どんどん増える発達障害、ストレス関連障害、認知症… 3つ子の魂100までも、地域なくして国ならず!!-
事業実施による効果	<p>高橋義男先生は冒頭、「発達障害は病気ではなく、現象である」と明言し、発達障害の子どもが多くなってきているのは現代社会の状況に問題があり、子どもの脳が変わってきていることに原因があるとことを指摘した。また、子どもには、特に発達障害を持っている子どもには「寄り添うだけでなく、一緒にする」ことの大切さを強調した。</p> <p>高橋先生はデジタル化の波が押し寄せ、人工知能(AI)の進化が顕著になってきている近年の情報化社会に対して警鐘をならしている。次代を担う子どもたちには、自ら学び自ら考えることに加え、他者と共生・協働し、知恵を持ち寄り、未来を切り拓く力を身につけることの大切さを説いている。</p> <p>医療分野、特に脳科学的な見地から考える話しは非常に説得力があり、共感して聞くことができた。また、教育という分野から私たち一人一人の教職員が周囲を巻き込みながらできることは何かを訴えかけているようであった。</p> <p>参加者の中には、これまでに自分の子どもや親が高橋先生にお世話になったり、「いけませ」に参加した方がたくさんいて、再会して話しを聞くことができたことに感慨深さを感じていた。</p> <p>講演終了後の参加者からの感想では、「病気ではない、現象だという言葉に自分の見方・考え方でいいんだと分かり、力をいただいた」「たくさん資料とスライド、もっと詳しくうかがいたい。家に戻って資料をもう一度読み直したい」「日頃から子どもたちには創造力と経験値と思っているのが、方向としては間違っていなかった」等と、これから子どもたちに接する上で大切にしていって前向きな姿勢をたくさんもらった。</p> <p>小樽市を含むほとんど全ての管内町村からの教職員の参加があり、今後、教育活動を進めていく上で、子どもたちが夢や目標を持ち、諦めずにチャレンジしていく力など、将来を生き抜いていくための大切なことを学んだ。</p>
備考	本教育講演会の概要をセンターのHP等に掲載し、広く管内教職員に情報を提供してまいります。

一般財団法人 北海道公立学校教職員互助会教育講演会事業
後志教育講演会
 兼 第五十四回後志管内教職員研修会

演題 「渡る世間は嘘ばかり…Part 1」

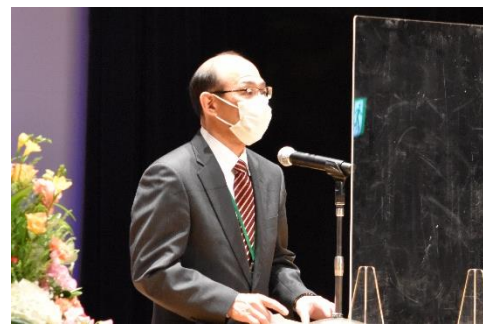
— 思考停止の世の中で…どんどん増える発達障害、ストレス関連障害、認知症…
 三つ子の魂百までも、地域なくして国ならず！ —

期日 令和三年十二月二十八日(火)
 会場 倶知安町文化福祉センター
 公民館大ホール

講師 高橋 義男 氏



祝辞 後志教育局長 川端 香代子 様



実行委員長 齊藤 信之 挨拶



講師紹介 副実行委員長 渡邊 均



来賓の皆様



会場の様子



謝辞 実行委員 庵 健司



花束贈呈 事務局長 長谷川 誠



とまこまい脳神経外科副院長兼小児脳神経外科部長
 高橋 義男 講師

令和3年度後志教育講演会 兼 第54回後志管内教職員研修会

- 日時 令和3年12月28日(火)14:00～16:00
□会場 倶知安町文化福祉センター公民館大ホール(倶知安町南3条東4丁目)
□講演 講師 高橋義男氏(とまこまい脳神経外科副院長兼小児脳神経外科部長)
演題 『渡る世間は嘘ばかり・・・Part1』
-思考停止の世の中で・・・どんどん増える発達障害、ストレス関連障害、認知症・・・ 3つ子の魂100までも、地域なくして国ならず!!-

■参加者の感想

1. 自分も現実としっかり向き合っていないことを痛感しました。子ども達が二極化してしまっているのは決して子どものせいではないのに、子どもは本当に困り感を抱えている。そういう子たちに対して、私も気付かないふり、知ったかぶりをせずに、一緒に考え、悩んで、どうすると少しでも生きやすくなるのか、共に歩んでいける大人にならなければと思いました。
2. 子どもは親も地域も一緒に見ていくことが大切。私も学校でずっと卒業しても見守っていくことを大切にしたいと思います。
3. 自分の子育てと照らし合わせながら聞き入ってしまいました。思考停止による負の連鎖・・・恐ろしいなと思いました。
4. 大人も子どももメディア等大量の情報に振り回されていると感じる毎日ですが、やっぱり人は顔と顔を合わせて、直接関わり、心を通わせていくことがとても大切だと思いました。
5. 脳神経から考えるお話しは説得力があり、関心をもって聞くことができました。教員も若年化、生き字引になる先輩がぐんと減り、これから先が不安なところですが、高橋先生の話聞いて大変励みになりました。面白かったです。
6. こんな時代だからこそできることは何だろうと深く考えさせられる内容でもありました。教育としてできることは何だろうと周囲を巻き込みながら考えていく必要があると思いました。
7. 「病気じゃない、現象だ」という明言に、私の見方・考え方でいいんだと分かり、力をいただきました。目の前にいるドロップアップ寸前の子どもたちを「私はあきらめない」と思っていたのですが、「あの子等にあきらめさせない」ことの方が大事なのですね。とても難しく、チームで取り組むと言っても、そのチームをどのように作ればいいのかも悩みますが、まず一歩、更に一歩と進むしかないんだと強く思いました。お身体を大切にされ、これからも頑張ってください。
8. 寄り添うではなく、一緒にすることを大切に子どもと学んでいます。来年は「いけませ」ありますか。参加したいです。
9. 病気ではなく、現象であること、子どもたちのまわりにいる私達、社会が変わっていかなくてとは改めて感じました。日頃から子どもたちには創造力と経験値とと思っているのが方向としては間違っていないのかなとも思いました。
10. 発達障害は社会問題というお話しに納得しました。あきらめず子どもたちに関わり、保護者と話していきたいと思いました。
11. 少しでも気を抜くとついて行けなくなってしまいそうで、とても緊張感のある講演

でした。資料じっくりと読みたいと思います。

- 1 2. いただいた苦小牧新報がとてもためになります。ありがとうございました。
- 1 3. 虐待や面前DVを受けた子どもとその脳と発達障害について、非常に興味があります。次回、お聴きしたいです。
- 1 4. 質問・『スマホ脳』を読むと、人間の脳は簡単に変わらない（進化しない）から、スマホに時間をとられ、睡眠時間が減り、脳がお掃除されないからボケるといようなお話だと理解したのですが、高橋先生のお話だと「脳が変化」していることになりましたよね。スマホが脳や眼に悪いのはわかるのですが、スマホは手放せません。どうしたらいいのでしょうか。「親を変える」のも難しいです。「思考する」にはどうしたらいいのでしょうか。
- 1 5. 「脳の変化」はリセット必要とありました。どのようにリセットしていけばよいのでしょうか。それを考えるのも私達教員の仕事なのでしょうが・・・。
- 1 6. 発達障害の子どもが多くなってきているのは、現代の社会のせいで子どもの脳が変わってきていることに原因があることに驚きました。今はPCやタブレットを用いた環境が当たり前になり、経験よりも知識があれば良いとなっているのは問題だと思いました。調べて、映像が見て、OKではなく、やはり実際に体験して、見て、聞いてを大切にしたいなと思います。

一方で、近年の教育ではプログラミング教育、ICTを用いた教育を進めるよう呼びかけられています。便利だし、これからの社会では必要だと思いますが、このままでは、発達障害になる脳が増えていくのでしょうか。どちらを選ぶか、選択を迫られるのでしょうか。とても気になりました。
- 1 7. 5年前に担任した男の子は、常に興奮状態のことが多く、特に集団の中でじっとしていることが苦手で音を出し続ける、奇声を上げる等、学習もなかなか難しく、どう指導していいのか悩む毎日でした。先日、その子が高校をやめたと聞き、今も考える日々です。いつか先生とお話しできる機会があったらご相談したいと思いました。
- 1 8. 病気ではなく、現象であり、様々な時代の変化が要因であるということ・・・、その通りだと感じました。自分に何ができるのか、考えさせられる時間でもありました。高橋先生には息子がお世話になっておりました。またお会いでき、お元気な姿を見ることができ、嬉しかったです。
- 1 9. 大事なことの一つ一つがシンプルでわかりやすかったです。今から、約20年前に、父が大川原脳神経外科病院で手術を受けました。今日、不思議な縁を感じました。
- 2 0. ドクター、その節はお世話になりました。娘も30歳になりました。お陰様で元気に過ごしております。ドクターのお陰で今の娘があります。本当にありがとうございました。学校現場も年々発達障害を抱えるお子さんが増えています。今日のお話を明日からの糧に、子どもたちに寄り添いながら、子どもたちと一緒にがんばりたいと思います。ありがとうございました。